



■ それぞれの問いに答えなさい。

(1) 例を見て、あとの文を書きかえなさい。

〈例〉 宿題がすんだ。だから、遊びに行く。

( 宿題がすんだから、遊びに行く。 )

① 山田さんの家をたずねた。すると、女の子は「父はいません。」と言った。

( )

〈例〉 宿題がすんだから、遊びに行く。

( 宿題がすんだ。だから、遊びに行く。 )

② 川がきれいになってきたから、魚がすめるようになった。

( )

(2) 適当な文になるようア、イのいずれかを選んで、記号に○をつけなさい。

① 先生が今夜は雪がふると言われた。(ア そして イ ところが)、その通り雪はふった。

② 明日は母のたん生日だ。(ア だが イ それで)、プレゼントを買いに行った。

③ 車がこしようした。(ア そのため イ それとも)、目的地につくのがおくれた。

(3) ( ) の言葉を使って、文を完成させなさい。

① 「電車 間に合った」

わたしは必死になって走った。

その結果、( )。

② 「さめた 目」

鳥のなくきれいな声で、( )。



第1回

絵を見て

日 分  
月 時 時

二 次の絵を見て、問いに答えなさい。



(1) ①④の絵を見て、「1のような...」「4のように...」という言い方で説明しなさい。

① 顔をしたお母さん

② 入道雲

③ 太った犬

④ やせた人

(2) ①の絵のお母さんは今、どんな気持ちだと思えますか。

( )

(3) ③の絵の犬を「ふらふらとたおれた」というように、様子を表す言葉で答えなさい。

( )

(4) ④の絵の人を「ピカピカにひかっただ鏡」というように、様子を表す言葉で答えなさい。

( )

(5) ②の空白に適当な絵を書き入れなさい。



# 第1回

## 生活文を見て

(1)

日 分  
時 時

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人は、それぞれ、ほかの人の知らない心の地図をもっています。

わたしが小学生だったころ、<sup>①</sup>わたしの心の地図は、急速に広がっ

ていきました。日ごとに書きかえられていく新しい地図が、心の中で

何まいも何まいも重ねられていきました。

わたしの、その新しい地図の広がりには、わたしたちととんぼ、ある

いはばつた、その他の昆虫や、かたつむり、かえるなどと、深いか

かわりをもっていました。わたしたちは、<sup>②</sup>そのころ、小さなしゅ

りよう民族の一員だったのです。

まず、天神さんとよんでいた北野天満宮のうらの森は、あぶらぜみ、

みんみんぜみ、にいにいぜみなど、さまざまなせみの宝庫でした。わ

たしたちは、<sup>③</sup>とりもちを糸のようにのばして、先のはりがねの輪に

からめた長いさおを持って、くり出しました。うっそうとしげる木の

こずえからもれてくる日の光で、<sup>④</sup>わたしたちの顔は、緑色にそま

りました。

また、金閣寺の近くの山には、わたしたちにとって、もっとみりよ

くのな虫たちがありました。かぶとむしと、たまむしでした。

あの、堂々とした角をもつかぶとむし、光の当たりぐあいによって、

さまざまにはねの色を変化させるたまむしは、この地球上の何物にも

かえがたいえものなのでした。

注 とりもち…こん虫などをとらえるために使う粘着力のある物質

(1) 線①「わたしの心の地図は、急速に広がっていきました」と

ありますが、地図の広がりほどのようなものと深くかわっていま

したか。あてはまらないものをア～エから選んで、記号で答えな

さい。

ア とんぼ      イ かたつむり      (      )

ウ せみ      エ 金閣寺      (      )

(2) 線②「そのころ」とは、いつのころですか。□にあてはまる

言葉を、文中から三字でぬき出しなさい。

わたしが □ □ □ だったころ

(3) 虫をとって遊んでいた「わたしたち」のことを、何といってい

ますか。文中から十三字でぬき出しなさい。

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

(4) 線③「わたしたちの顔は、緑色にそまりました」とは、どう

いうことですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言

葉を書きなさい。

木の□(A)からもれる□(B)が、わたしたちの顔にうつつ

ている。

(A) (      )      (B) (      )      (      )

(5) 本文の内容とあっているものをア～エから選んで、記号で答えな

さい。

ア 小さいころ、わたしはほかの人と同じ地図をもっていた。

イ 小さいころ、わたしはかりをして生活をしていた。

ウ 天神さんのうらの森には、さまざまなせみがいた。

エ 堂々としたつのと、はねの色が変わるかぶとむしは宝だった。

(      )      (      )



## 第1回

### 生活文を見て(2)

日	分
時	分
時	分

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

かえるもまた、わたしたちのかりのえものになりました。京都の、ごぼん目の通りの、市街地をはずれた西の方は、今でこそぎっしり家がたてこんでしまいましたが、そのころはまだ、いたる所に、田んぼや畑、**A**、だだっ広い空き地がありました。わたしたちは、そこで、とのさまがえるをとり、**①**その大きさをきそい合いました。

かえるとりの「スイバ」はありませんでしたから、このかりは、新米も古参もなく、だれもが対等でした。古参の**②**かりゆうどが、新米のわたしたちに出しぬかれると、くやしそうに口をゆがめて、「そいつは、大きいことは大きいけどな、かつこうはあんまりよいないさかい、ねうちはあんまりないでえ。」と言ったりしました。

とってきたかえるは、家のうら庭の、小さな池に放ちました。どこへ行くのか、かえるたちは、たいてい、ひとばんのうちに、どこかへいなくなっていました。

その後、わたしの中の心の地図は、それほど大きくふくらむことではなくりました。わたしが**③**少しずつ大人になっていったせいでしょう。

でも、今でも、わたしは、紙の上にかかれた地図ではなくて、みずみずしい喜びや悲しみを、たっぷりしみこませた心の地図を、もっともっと広げたいと、ときどき思うことがあるのです。

注 スイバ：古参のかりゆうど（虫をとる子どもたちのこと）がもつひみのかり場

(1) **A** にあてはまる言葉をア～エから選んで、記号で答えなさい。

ア だから    イ でも    ウ あるいは    エ つまり

( )

(2) —線**①**「その大きさ」とは、何の大きさですか。文中から七字でぬき出しなさい。

(3) —線**②**「かりゆうど」とありますが、何のかりゆうどですか。文中から五字でぬき出しなさい。

(4) —線**③**「少しずつ大人になっていったせい」で、どんなことがありましたか。ア～エから選んで、記号で答えなさい。

- ア かえるとりが上手になった。  
 イ 田んぼや畑、空き地がふえていった。  
 ウ わたしの心の地図は、どんどん大きくなっていった。  
 エ わたしの心の地図は、それほど大きくふくらまなくなった。

( )

(5) この文章を次のようにまとめました。□にあてはまる言葉を文中からぬき出し、文を完成させなさい。

大人になった今でも、小さいころのように□□□□や□□□□をたっぷりしみこませた□□□□□□□□を広げていきたいと思っっている。